

# 巻 頭 言

九州地区大学体育連合会長 杉 山 佳 生

1999年に、ヨーロッパスポーツ心理学会 (FEPSAC) のプロジェクトとして、「Psychology for Physical Educators」という書籍が刊行されました（「体育教師のための心理学」として、翻訳出版されています）。その章立ては、「身体活動・運動・健康の心理」「体育の心理的成果」「運動スキル獲得と運動能力」「体育の社会心理」「体育教師の心理」と、いたって一般的なものでした。その後、2007年に、第2版が刊行されるのですが、目次構成が、「生涯の健康の増進」「生活に役立つ社会的スキルの促進」「自己概念と認知的スキルの促進」「生活に役立つ運動スキルの促進」と大幅に変更され、スキル、特に、心理社会的スキル (psychosocial skills) に関わる内容が中心部分を占めることになりました。このことから窺い知れますが、体育において心理社会的スキルの教育・学習を重要視するという流れは世界的なものであり、日本の大学体育でもこの種のスキルが注目されたのは、必然的であったといえることができます。

ところで、このような心理社会的スキルが体育教育の場で扱われるようになったのは、「スポーツをすることで、心理社会的スキル（例えば、コミュニケーションスキルやストレス対処スキル）が身につくから」という理由からだけではありません（ただし、この表現は正確ではありません。「単にスポーツをするだけで心理社会的スキルが身につく訳ではなく、適切な教育やトレーニングが必要である」という考え方が、当該学術領域での基本的認識です）。そこには、他に、二つの重要な理由が存在しています。

一つは、「心理社会的スキルは、健康の維持・増進に資するスキルである」ということです。WHOは、日常生活での問題に対処するために必要な心理社会的能力を「ライフスキル」と名づけているのですが、それには、「意志決定スキル」「コミュニケーションスキル」「自己意識スキル」「ストレス対処スキル」などが含まれており、心理社会的スキルそのものです。つまり、ライフスキルという心理社会的スキルは、心身の健康維持・増進のために習得することが期待されているスキルであり、その意味で、体育（健康教育）で扱うべき事項といえるものなのです。

もう一つは、「心理社会的スキルは、運動スキルのアナロジーとして捉えられる」という点です。社会的スキルの概念を提唱したといわれている Michael Argyle は、「社会的スキルは、運動スキルと同様のプロセスで習得される」と論じ、現在でも、この考え方は継承されています。すなわち、運動スキル指導の専門家である体育・スポーツ教員が、心理社会的スキル教育を行うのにふさわしい知識・理解・能力（の基礎）を有していると考えerことは、決して無理なことではないのです。

こういった経緯で、体育という場での心理社会的スキル教育が広まってきたのです。とはいえ、体育において、運動スキル教育をないがしろにしてよいというものでもありません。「大学という高等教育において、運動（スポーツ）スキルを学修することに、意味や意義はあるのか」という批判を時々耳にします。これに対しては、「運動スキルを修得するプロセスを、体験を通して理解する、そして、それは、心理社会的スキルの学修に適用（応用）できる」と答えることができます。このように、大学体育は、スキル（運動スキルおよび心理社会的スキル）の学修法を学修する「メタ学修」を行っているところに意義があるということを強調するのがよいかもしれません。

# 目 次

巻 頭 言 .....	杉山 佳生 (九州地区大学体育連合会長)	1
<b>I. 教育研究論文</b>		
— 原著論文 —		
1. 講義におけるマインドマップノートの導入とその効果 — 授業規模間の比較 — .....	橋本 公雄 (熊本学園大学)	5
2. 体育系大学のダンス授業における技能評価力を高める授業実践の効果 — リズム系ダンスの「技能評価観点構造図」を手がかりとして — .....	梶 ちか子 (鹿屋体育大学) 松元 隆秀 (東海学園大学) 金高 宏文 (鹿屋体育大学)	15
<b>II. 大学体育連合関連情報</b>		
1. 九州体育・スポーツ学会合同企画報告 「教養体育」授業担当資格の認定に向けて .....	則元 志郎 (熊本大学名誉教授)	29
<b>III. 体育・スポーツ関連情報</b>		
1. 海外だより .....	泉原 嘉郎 (福岡大学)	31
2. 大学めぐり .....	岸本 裕歩 (九州大学)	34
<b>IV. 平成30年度体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議</b>		
1. 研修プログラム		
(1) 1日目プログラム		
・ シンポジウム「大学体育の研究手法～研究の質向上に向けて～」		
コーディネーター：中山 正剛 (別府大学短期大学部) .....		37
演 者：笹井 浩行 (東京大学) .....		39
演 者：西田 順一 (近畿大学) .....		42
司 会：田原 亮二 (名桜大学)		
・ 一般発表		
① 教養教育科目「スポーツサイエンス」での試み — 大人数講義でのアクティブ・ラーニングと授業外学習について — .....	飯干 明 (鹿児島大学)	45
② 講義におけるマインドマップの活用と今後の課題 .....	橋本 公雄 (熊本学園大学)	48
③ 大学生における運動部活動と生きる力との関係 .....	小賦 肇 (名桜大学) 東恩納玲代 (名桜大学) 田原 亮二 (名桜大学) 遠矢 英憲 (名桜大学) 石橋 千征 (名桜大学) 奥本 正 (名桜大学)	49
④ 大学生におけるスポーツ実技授業の心理的効果 — 二次元気分尺度による運動前後の気分変化 — .....	石倉 恵介 (崇城大学) 増村 雅尚 (崇城大学) 水月 晃 (崇城大学) 阪本 達也 (崇城大学)	50
⑤ 学生の専攻や特徴に応じた健康教育カリキュラム開発が必要な一例 — 芸術系大学と非芸術系大学の学生における喫煙意識の比較 — .....	北 徹朗 (武蔵野美術大学) 森 正明 (中央大学)	52

(2) 2日目プログラム

・一般発表

- ⑥ 大学教養教育におけるウェルネス科目の取り組み ― 福岡工業大学による事例報告 ―  
……………榑崎 兼司(福岡工業大学) 樋口 貴俊(福岡工業大学) 56
- ⑦ 長崎国際大学スポーツブランド“NIUS”醸成に向けた取り組み  
……………熊谷 賢哉(長崎国際大学) 宮良 俊行(長崎国際大学)  
田井健太郎(長崎国際大学) 元嶋菜美香(長崎国際大学)  
宮本 彩(長崎国際大学) 宮原 恵子(長崎国際大学)  
徳吉 剛(長崎国際大学) 坂本 亘(長崎国際大学) 58
- ⑧ 福岡大学初年次学生の体力水準  
……………古瀬裕次郎(福岡大学) 檜垣 靖樹(福岡大学) 60
- ⑨ 特別講演 大学体育と専門教育  
……………則元 志郎(熊本大学) 61
2. 平成30年度九州地区大学体育連合春期研修会に参加して  
……………古瀬裕次郎(福岡大学) 66

V. 事務局報告

平成30年度 九州地区大学体育連合事業報告	67
平成30年度 理事会議事録	68
平成30年度 総会議事録	71
平成30年度 決算報告	73
「体育・スポーツ教育研究(第21巻第1号)」の論文投稿のご案内	75
令和元年度 事業計画	76
九州地区大学体育連合規約	77
平成30年度 九州地区大学体育連合 役員名簿	78
令和元年度 九州地区大学体育連合 役員名簿	79
令和元年度 九州地区大学体育連合 加盟大学および個人	80
令和2年度 九州地区大学体育連合 加盟大学および個人	81
令和元(2019)年度大学体育指導者全国研修会 参加申込書	82
九州地区大学体育連合研究助成の廃止と春期研修会における優秀発表賞選考の開始について	83

編集後記